



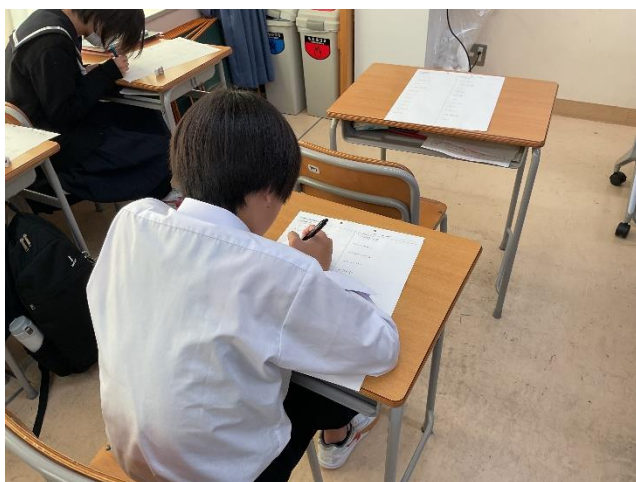
fuzokugimu_mathematics

どんな学びがいいのだろう？

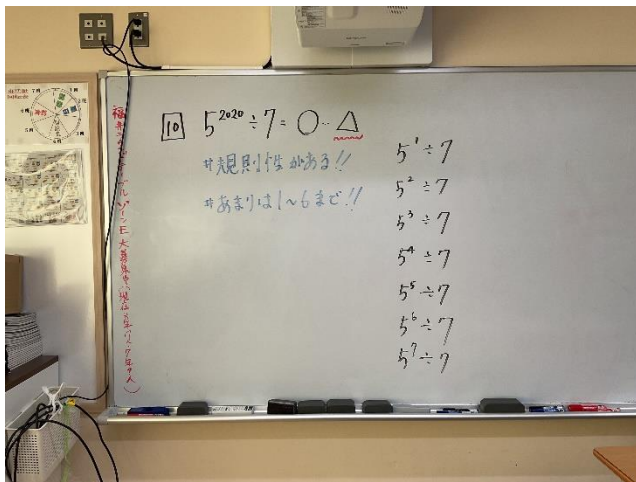


本校は協働探究の授業を中心に行っていますが、毎回の授業が探究活動ではなく、単元が終わるごとに単元の学びを復習する時間を取っています。

子供たちは、教師が準備した課題に取り組んだり、自分で準備した問題集を解いたりして、単元の学びを復習していきます。



また子供たちの取り組み方も、人それぞれです。1人で黙々と問題に向き合い、じっくりと取り組む子。難しい問題やわからない問題をクラスメイトと一緒に考える子。一人一人の子供たちが、自分にあった学習スタイルで復習に取り組んでいます。クラスメイトと相談すると、教室内がうるさくなりそうですが、一人で取り組んでいる子の邪魔にならないように静かな声で相談しています。



また教師は、多くの子供たちが苦戦している問題を取り上げ、子供たちの発言をもとに、考え方を全体に共有していきます。「何をどう使うといいのか?」、「どんな学びにつながっているのか?」など、これまでの子供たちの学びを価値づけながら、教師自身も学びを復習していきます。

全体共有後、教室内をまわっていると、多くの子供たちは、苦戦した問題に取り組んだり、丸付けをしたり、間違えた問題のやり方を相談したりと、一人一人が必要な学びを選択して取り組んでいました。中には、高校生の問題集を取り出し、高校の内容を調べながら取り組む子も見られました。自ら課題を見つけ学びに向かう姿に感動しました!!

子供たちは、教えられなくても、自ら学ぶ力があります。もちろん教師が教える場面も大切です。しかし、子供たちが自ら学びに向かう姿こそが、一人一人の学びにつながっていくと感じます。

私たち大人も、教えられたことよりも、自ら経験し、自ら学んだことの方が、いつまでも残り続けていませんか？

2025年11月7日